

新見市産業振興会議 議事要旨

開催日時	平成30年11月5日(月) 13:30~15:00
開催場所	新見市役所南庁舎 3階 会議室3A
出席者	《委員》 上田久志、岡本直行、城井田二郎、小谷昭一、鈴木 香、中村良平 林田昌吾、山本日吉司、安達悦久 《事務局》 鹿島隆産業部次長、柏葉孝明係長、赤木崇泰主任
欠席者	三宅 昇、武内洋二
配付資料	委嘱状交付式次第 委員名簿 会議次第 新見市産業振興会議規則 新見市産業振興会議幹事会運営要領 新見市の産業振興施策
内容	※以下のとおり

新見市産業振興会議委嘱状交付式

1 開会

2 委員委嘱

3 市長挨拶

人口減少、少子高齢化が進行する本市にあって、将来にわたり持続可能で活力あるまちづくりを進めていくことは、大変重要と考えている。

市内経済の支えとなっている中小企業・小規模企業の活性化は喫緊の課題であり、市全体で支援していくことが必要であると考え、本年7月、「新見市中小企業・小規模企業振興基本条例」を制定した。

この条例の趣旨に則り、市内の中小企業者・小規模企業者の活性化を推進していくための有効な施策を展開していかなくてはならないと考えている。

そのために、現在、実施している施策の検証をはじめ、様々な立場やいろいろな角度からの意見、提言を賜りながら、実効性のある施策の構築につなげていくことが重要と考えている。

この産業振興会議は、基本条例で掲げた内容を具現化するための重要な組織

みなさま方の豊富な知識と経験で新見市の産業振興に大きなお力添えを賜るようお願い申し上げます。

4 閉会

新見市産業振興会議

- 1 開 会（産業部次長 鹿島 隆 が司会として進行）
- 2 委員紹介（司会から紹介）
- 3 新見市産業振興会議について（別紙資料に基づき事務局から説明）
質疑なし
- 4 議 事（座長選出まで司会が進行）

（1）座長及び副座長の選出

事務局案として座長に中村教授、副座長に鈴木委員長を提案し、拍手多数で承認

〈座長就任挨拶〉

新見は、たいへんなじみ深いまち、2014年に地方創生の本を書いた際の編集者が新見出身の方で、「墓参りにしか帰らない。新見に帰って何かしたいが、中々仕事がない。」としみじみ言っていた。

仕事がないというのではなくて、新見から出て行ってキャリアを積まれた人が帰ってきて活躍できる仕事をつくってあげる事が一番大事、まちにないような仕事とか、まちの人が必要としているような仕事、あるいは、商売を一本釣り、全国からから公募で招いているようなまちもある。新見もい其他山の石として活用していったらいいのではないか。

（2）幹事会の設置について（座長が議長として進行）

事務局：別紙「新見市産業振興会議幹事会運営要領（案）」を説明
質疑なし、拍手多数で承認

（3）新見市の産業施策について⇒別紙「新見市の産業施策」に基づき説明

[意見質疑など]

- ・企業誘致の網掛けとなっている企業の操業予定は。
⇒ミリオナ化粧品が、来春、アースクリエイトが32年、本宏製作所が32年8月
- ・どのくらいの雇用が出るか。
⇒アースクリエイトが約20人、本宏製作所が23人、ミリオナ化粧品が約20人
- ・急に誘致が出てきた理由は、補助金か何かの効果があったか。
⇒補助金を増額したのも一つのきっかけ、企業活動が活発化してきた。

- ・ I J Uターンで帰ってきた人達はどんな仕事されるのか。
⇒ I J Uターンは企業就職が前提、既存企業や誘致企業に入る。
- ・ 企業に I J Uターンで就職される場合、だいたい製造業か。製造業も、職種は、資格を持つということは、何らかの技術か検査といった職種か。
⇒ I J Uターンの就職奨励金の実績でいうと、製造業も確かにあるが、それと加えて多いのが福祉関係、女性はそういった所の就職先が多い。
- ・ 「帰ってきて就職していただければ、こういう制度がある。」ということ由市報などで広報はしてもらっている。市報をよく読んでもらう工夫とか、宣伝をして、見ていただきたい。
- ・ 帰ってくる人を捕まえるため、その実家や親御さんへ訴求するのはいい。
- ・ 就職活動している大学生に新見にいろんな職があり、補助金も用意してあることを認識してもらう。
⇒ 就職説明会には出向いていない。出向くことは可能。担当課として積極的に参加する意向で考えたい。市内の企業を実際に訪問して興味を持っていただくツアーを行っている。大学の方にも、参加していただいた。そのような事業と連携をさせて、ご提案いただいたようなことも視野に入れていきたい。
- ・ I J Uターン就職奨励金、資格取得補助金の年齢制限を少し上げてはどうか。
⇒ 年齢制限を設けることが是か非かということをもう一度洗いなおして、それを撤廃することによって就労促進が可能になるのなら、それは役所としても大いに変えていくべき
- ・ 市内の企業がお互いに仕事を出し合う、新見市も市内の企業に出す。企業がもう少し元気になるような、物価も抑えて、企業が元気を取り戻す施策が必要
- ・ 中学生のチャレンジワークの内容に市内の企業を子ども達知るという視点を加えていくことが必要
- ・ 都会に出かけていった子ども達がこちらに帰ってくるための施策はどこかで必要

(4) その他

[意見質疑など]

- ・ 登記事項の証明書発行機を産業振興会議として設置するような方向で、決議をしていただきたい。
⇒ 重要課題であるということは役所も認識している。産業振興会議で採択されるようなら、早期に、市として取り組むべきであろうと考える。
- ・ 提案について、この振興会議でお認めいただいたということで、市の方にお問い合わせという流れでよいか。
⇒ よい。
- ・ 次回の会議はいつ頃か。

⇒振興会議は、来年の3月までにはもう一度、その間に幹事会を開き、先ほど皆さんにいただいたご意見や本市が行っている施策などについて具体的な検討をしていただく。

- 公立大が、4年生大学になる時点で、新見としての学生に対する支援を幹事会で一つの内容としてお願いしたい。もう一点、企業が大小あるので、物品、食材のひとつに至るまで新見市でやり取りできるような、みんなで守ろうというまちにしておくことを強く念願する。
- 地産型、循環型、あるものは、地域で活かしていくということは効果がある。大学については幹事会の方で議論していただく。
- 人口減少問題対策会議で住民票を置いた学生に月額5,000円の花がき券を渡して生活の補助にさせていただくということが提案されていたので検討していただきたい。

5 閉 会